（27）委員意見の概要

資料	頁
第２回会議　委員意見の概要	2-（27）-1
第３回会議　委員意見の概要	2-（27）-6
第４回会議　委員意見の概要	2-（27）-11
第５回会議　委員意見の概要	2-（27）-20
第６回会議　委員意見の概要	2-（27）-26
第７回会議　委員意見の概要	2-（27）-30
第８回会議　委員意見の概要	2-（27）-34
第９回会議　委員意見の概要	2-（27）-38
第 10 回会議　委員意見の概要	2-（27）-44

委員意見の概要（第２回会議）

地域振興策の検討ポイントについて

●地域に求められる将来像に、「誇り」とともに「持続可能性」を加えるとより良い。

●建設候補地は千葉ニュータウンだけでなく、佐倉方面にも近いので驚いた。

●吉田区に限らず印西地区は、農業が魅力的な資源である。

●厳密なマーケティングをやるべきというわけではないが、農業振興策を考えるにあたり、農業の担い手人数がどの程度なのか把握したいことから、吉田区の年齢構成や農業従事者数の大まかな傾向を調査報告してもらいたい。

●「吉田区は三つ葉が特産で生産技術が高い」というようなローカル情報は、地域活性化考える上で非常に大事な情報である。

●地元の方々が大したことではないと思うことが、実は大事な地域資源である場合が多い。

●緑豊かな里地里山の風景は非常に貴重なものである。吉田区の里地里山の保全状況は高い水準にあると思う。ただし、資材置き場やヤードなども散見するので、そうした状況を上手く処理しないと、里地里山が荒れてしまい地域の価値が衰えて魅力がどんどんそがれていく。よって、景観対策的なことを地域の課題の一項目として掲げるべき。

●地方創生における成長戦略がどこまで続くのか分からない中、施設の維持管理費で子孫に大きな負担を残さないよう、現実的な問題として地域に求められる将来像に「経済効率性」も考慮する必要があると思う。そうしないと、せっかくの地域振興策が机上の空論で終わってしまうと思う。

●「持続可能性」は、経済も含んだ概念なので、地域に求められる将来像に「持続可能性」を加える場合、「経済効率性」も包含される。

●組合の管理者が変わった途端に政策も変わってしまい、地域振興策の青写真がグレー写真に戻っても困るので、これから検討委員会でしっかりとした議論が必要となるが、大事な点は吉田区の住民を第一に考えながらも、住民税を払っている印西地区住民が納得する内容にすることだと思う。

●吉田区だけを見て地域振興策を検討するのではなく、印西地区全域との共存や助け合いに繋げると良い形となる。

●参考までに、例えば「印旛沼周辺の観光レクレーション計画」、「サイクリングコース整備計画」、「レクリエーションルート計画」、「農村地域の整備・保全計画」などがあれば、資料提供してほしい。

●地域資源はしっかりと調査したほうが良い。

地域振興策の検討スケジュールについて

●９月５日に開催する第１回周辺住民意見交換会では、できるだけ地域の尖った人達（独創力・行動力を有す）から貴重な情報を集めてほしい。

●第１回周辺住民意見交換会は、地域振興策のパッケージ化がある程度終わった段階で開催すべきだと思う。

●第１回周辺住民意見交換会は、今後の審議の状況を見てから開催時期を決定することで良い。

●第１回周辺住民意見交換会では、地域振興策パッケージの中間報告に止め、地域住民の反応を見たほうが良い。

●９月の時点では、検討委員会の審議内容が地域住民の想いに追いついていない可能性もある。

●ある程度審議が纏まってから第１回意見交換会に臨まないと、以後の検討が錯綜する可能性があるので、地域振興策のパッケージ化がある程度終わった段階で開催することに賛成する。

地域振興策に関する吉田区のブレーンストーミング結果について

●箱物で地域活性化に成功した事例を個人的には余り知らないが、小さな特化型の施設を集積し、結果的に多くの人が利用できる環境の実現として、地元の方々が生産した野菜や果物などの特産品を直売し、また、特産品を加工した漬物やアルコール飲料を販売している道の駅は評判が良い。

●吉田区のブレーンストーミングで出されたパラグライダーやサイクリング関係施設は、他地区の一般住民からするとぴんとこないかも知れないが、若者を惹きつけたい、新しい出会いを増やしたい、家族ができれば良い、こうした切実な想いがこもっている。

●吉田区内の共同井戸の水質検査を数年前に２回実施したが、水質はとても良好であった。

●地域振興策が上手く進むと相当数の方々がサイクリングに赴くと思う。

●様々な経歴の委員で構成されている委員会なので、更に良いアイデアをできるだけ出してほしい。

●印西地区は環境ＮＰＯをはじめ個人レベルであっても環境学習や自然学習に取り組みたい方々が多く居住していることから、次期中間処理施設の一部を環境学習のスペースとして活用することを考えたら良いと思う。

●防災機能も環境学習も公共的な要素が多いと思うが、大震災のときに防災機能を持たせたある内陸の道の駅では、全国のボランティアがそこを拠点にして寝泊まりし、沿岸部の被災地へ応援に駆けつけたという立派な実績がある。印西地区住民が安全に避難できる場所、子ども達が環境学習できる場所という発想は良いと思う。

●若者を呼び込みたいという気持ちは切々と伝わるが、少し若者側に寄っているように思う。一方では健康でいかに寿命を全うするかということが最大のテーマだと思う。高齢化社会が進む中、若者向けのスポーツ施設ばかりではなく、高齢者が元気に楽しく過ごせるということが一つテーマになる。

●吉田地区とその周辺地区は、とても素晴らしい環境だと思うので、一帯を環境学習の一つのフィールドミュージアムとして考え、清掃工場と関連施設はその中核施設という位置付けが良いと思う。

●吉田区のブレーンストーミングの結果は、様々なアイデアが詰まっており、考え方も含め大変素晴らしい内容だが、次世代と現世代への配慮におけるベストミックスの他、地元地区と印西地区全体のメリット享受におけるベストミックスも必要だと思う。地元地区に特化した部分と、印西地区全体への寄与が両立する地域振興策が最も理想的だと思う。

●様々なアイデアや機能をインフラとして一つに纏めることで、健康や癒しに関するサービスを若者からお年寄りまで幅広く提供する複合的な温浴施設となる。また、国や県の予算を使える余地がある。

●清掃工場からの余熱は防災に役立てることのほか、地域創生に関し大事なこととして、農業を含めた産業振興に役立てても良い。また、蓄熱エネルギーの活用を含めて企業を誘致できた際は雇用創出にも繋がり、地元地区だけに限らず印西地区全体へ寄与が広がる。

●インフラ整備や建物整備はもちろん大事だが、ソフトとして例えば地元住民が使える買物券、介護タクシーのパス、バスの割引券などで地域を支援することも新たな地域振興策になると思う。

●吉田区のブレーンストーミングの結果は、地域住民にしか考えつかないようなところがあると感じた。

●道の駅、サイクル駐輪場、サンセットスパ、健康増進施設などを一体的・拠点的に整備する考えが吉田区にはあると思うが、一体的に相当な面積が必要になることと合わせオオタカが営巣している可能性のある周辺の谷戸の保全も含めて考えると、適切な土地利用を計画的に進める必要があると感じた。

●ある程度予算の枠が示されないと具体的な検討は難しい。

●農作物は、直売するよりも、料理するよりも、特産品を加工して売ったほうが大きな利益を得ることができる。

●吉田の特産品としては、歴史的に三つ葉が有名だが、現在は三軒の農家が生産している程度の規模である。

●特産品は特別な品種である必要はなく、例えばキュウリが美味しければ立派な特産品である。

●現状は、決定的に農家の後継者不足である。

●農作物が売れれば必然的に後継者は現れる。

●今後、ＴＰＰの関係で海外の農産物の輸入が増えると思うが、消費者が安心できる農作物として、例えば「ちばエコ」の基準や、より厳しい「ＪＧＡＰ」の基準により農作物を生産し、特徴を打ち出すことも考えられる。

●「ＪＧＡＰ」などは、利益に結び付くのであれば地域の農家が取り組むと思う。

●地域振興策のイニシャルコストを行政が負担し、運営は吉田区が自前で行うのが理想的である。

●施設の修繕を誰が負担するのか心配である。行政は施設を整備した後に客のニーズ・嗜好・動向に合わせた対応はしない。

●当たり前のことだが、売り上げを増やすためには大きな施設規模が必要となる。

●雇用創出という目的がある反面、大きな利益を得るためには、雇用条件の悪いパートを雇う必要があることから、取り組みの矛盾を解決する必要がある。

●運営はもちろん吉田区が中心になると思うが、働き手が不足するのであれば、広く印西地区から募集することでも良い。

●利益を上げることに関しては、小さく産んで大きく育てるという発想が大事だと思う。

●小さく産んで大きく育てるのは分かるが、清掃工場の補償事業として考えた場合、育てることに関してどのように行政側が対応するのか分からない。

●行政側で例えばスポーツ振興事業を進めると決めて、具体的な展開は民間で進めるという取り組み方は難しい。

●最終的に吉田区が期待しているのは雇用創出と収益だと思う。雇用創出は行政側からの委託事業なども考えられるが、収益に関することで行政支援を受けるにはテクニックが必要となる。

●運営は吉田株式会社で行うことで良い。第三セクターは発想が古い。

●吉田株式会社で儲かる仕組みを構築できれば構わないが、どの民間企業も手掛けていない事業を経営するにあたり、吉田株式会社の株主がそのリスクを背負えるかどうか疑問である。吉田株式会社が全てのリスクを背負うことはリスキーだと思うので、恐らく区の総会で纏まらないと思う。

●印西市・白井市・栄町からの大きな財政負担も難しいと思う。

●運営に関しては、吉田株式会社と行政側の兼ね合いを考える必要がある。

●施設は行政側で整備することで良いが、運営に関しては首長の交代や補助金の制度変更などのリスクがあるので、行政側に頼れないのではないのかと危惧する。

●印西市に進出している企業から運営費を助成してもらい、民で運営すれば良い。

以上

委員意見の概要（第３回会議）

施設整備基本計画検討委員会第３回会議の報告について

●次期中間処理施設の稼働開始予定年度は平成４０年度とのことだが、地域振興策の展開として先行できるものは速やかに進めるという姿勢を持たないと、地域が期待する成果が得られないと感じる。

地域振興策のアイデアについて
吉田区の課題と解決案について

（一括審議）

●地域振興策のアイデアとして、レンタサイクル、クラインガルテン、食品加工など色々あるが、究極的なわかりやすい目標として、例えば年収４５０万円で５０人の雇用とした場合、里地里山で人を集めることができても収入にはほとんど寄与しない。基幹収入がないと農業対策も難しい。

●里地里山で人を集め、外食店や温浴施設でお金を落とすという構図が考えられる。

●清掃工場が最も景観に対して負荷を与えるが、隣接する森にオオタカが営巣している可能性があること、エアポケットのような広大な台地、台地からの眺望などを考えると、地域振興策は、そうしたランドスケープと整合させた景観計画・環境計画に基づいて展開すべきことを明記したほうが良い。

●周辺の地形や自然との調和など、空間の特性に応じた地域振興策の取捨選択及び配置が求められる。

●地域振興策はリストとして相当のボリュームがあるが、全部を展開するのではなく、地域の空間特性を酌み取りながら個々の策を配置検討する作業が今後必要となる。

●今後、街並みのデザイン構造・原則を整理したい。

●清掃工場を誘致した吉田区とその周辺に特化した地域振興策が中心となるのは当然だが、農業政策は吉田区だけの問題ではなく、印西地区全体に関わる問題だと思う。

●吉田区にメリットのある地域振興策を展開するのか、それとも、広く印西地区全体のグランドデザインの中に位置付けるのかをまずは仕分けないと、検討が錯綜し現実化しないと思う。

●吉田区が合意できる地域振興策が纏まらなければ、候補地としての応募を取り下げる場合も考えられる。

●市全体の政策がないと吉田区の政策はできないということはない。逆に農業振興などは、吉田区における取り組みが一つの突破口となり市全体に広がる場合もある。

●今後、管理者が交代し政策が変わると歪みが生じる可能性がある。また、現状の地元における理解と協力の度合が将来的に異なってくる可能性もある。

●将来的な変化は腐心するところである。吉田区のメリットを追求しながら印西地区全体の賛同を得るにはどうしたら良いか、非常に難しい課題である。

●吉田区だけのメリットでは印西地区全体の合意形成はスムーズに進まないし、印西地区全体のメリットでは吉田区の合意形成は進まない。また、メリットが生まれる時期が相当先だと現世代の了解を得ることは難しい。

●里地里山の保全活用は大きな事業費を必要としないと思うが、地元住民が里地里山に対して価値を見出し本当に残したいと思うかどうか疑問である。

●里地里山の価値や存続は地元住民云々ということではなく、印西市が関係条例を制定するなど、行政側の関わり方や、印西市住民の意識次第で大きく変わると思う。

●里地里山の保全活用は、地域振興策を検討するにあたって核となる要素である。

●先程意見のあった「ランドスケープと整合させた景観計画・環境計画に基づいて展開すべき」ことは、里地里山の修景と関連するので、今後、大原則のようなものは議論する必要があると思う。

●和食が世界遺産として世界に通じることと同様に、里地里山は現代的価値から言うと重要な資源であり世界に通じるものがあるので、今後、里地里山の価値は増々高まる。

●意見書にあった「半農半Ｘ」に関し、里地里山の風景を保つことと農業振興の話は簡単に解決できるものではない。農業経営の規模の大小による良し悪しは一概に言えないものの、首都圏に最も近い台所と言われている中、きちんと信用できる風景の中で、信用できる人が農作物を生産していることが凄く重要である。

●これだけ首都圏や住環境に近接した里地里山を保全することは絶対条件というか、名刺の替わりになるようなものであり、地方の過疎地域や山間地の里地里山とは全然違う価値があると思うので、経営資源として重要な要素だと思う。

●農業の問題から見ると、周辺にゴルフ場が多いことはプラスの面とマイナスの面がある。

●農業は本当に複雑な問題があるので、何でも極端にイエス、ノーで考えることではないが、里地里山を活かしていく方向は賛成であるものの、里地里山は絶対条件という社会的価値が既に出てきている中、里地里山が万能な武器になるかというと、そうではないという状況がこの地域にはある。よって、様々な意見を組み込んで検討を進めることが重要だと思う。

●里地里山をどのように活かすかということを考えた際、この地域の谷津田の風景や価値は素晴らしいと思うが、現状において外部の人が来訪していないことを考えると、冷たい言い方をすれば、観光的な価値はそう高くない。また、ホタルの復活についても、現状で生息していないのは何か特別な事情があるような気がする。よって、地域振興策として里地里山に手を加える価値があるかどうかについては、冷静に判断する必要があると思う。

●里地里山の保全活用が、観光資源としての価値とどのように結びつくのかがポイントとなる。

●この地域の里地里山は、目で見た風景としてはかなりの高いレベルの価値があると思うが、見た目だけではなく、環境学習の場やレクリエーションの場としても活用しないと真価を発揮できないと思う。なお、印西地区には環境問題に熱心に取り組む住民が比較的多い。

●印西地区の住民と里地里山をどのように結びつけるかにあたり、清掃工場整備の関連事業というチャンスを活かし、皆が羨むような都市近郊の里地里山と集落景観を散策できる環境の整備を是非行うべきだと思う。

●里地里山へ頻繁に自転車で赴くが、谷津田の中に入ると台地の斜面が完全な緑に覆われており、一つの劇場・小宇宙のように感じる。この地域の谷津田は、高圧線などの人工物が全く目に入らず、なおかつかなり奥行が深いので、変化に富み面白い。北総台地の縁辺部の中でも原形が保たれたとても良好な景観だと思う。

●印旛沼周辺の状況を見ると、特に吉田区周辺に緑が多いと思う。広域的な観点から見て保全を基本としながら、いかに付加価値や文化面において様々な智恵を引き出せるかが重要な点だと思う。里地里山と一口に言ってもその中で特にシンボル的に大事にしていくべき場所だと思う。また、新川も空間的には非常に大切な場所だと思う。

●この地域は、割と親しみが持てる空間が広がっている。建設候補地の周辺に広がる土地も周りが森に囲まれており、魅力的で実に心地が良く、気持ち良く農業を営める場所だと思う。ただ、それ自体は観光資源にはならない中、皆に魅力のある場所だと思ってもらうために、結論的には雇用の創出が必要である。清掃工場を核にして、里山学習・環境学習のメッカにすることや、広域から赴くサイクリングの通過地点ではなく風呂などを利用していただくことなどを含め、吉田区の里山集落を磨き上げる発想が必要となる。

●長期的に考えると里地里山を維持するには、エネルギー、情熱、持続的なお金が必要になる。

●縁側喫茶は全国的に多く成功している。適当な時間帯におもてなしをして無理なく続けられるので、持続性が高いと思う。ただ、雇用も生み出していかないといけないので、例えば里地里山を維持しながら在来種の大豆を栽培し、排熱を利用してブランド豆腐を作ることなどが求められる。これは、先行事例があるが成功している。このようにある程度一極集中の事業経営をするメニューを１つ２つ考えていかないと、なかなかお金を生み出すところまで辿り着かない。また、短期・中期・長期的な目線からすると、若年層の雇用の場という仕掛けを作り、それをサポートする高齢者というような経営設計を景観と同時に考えるケースが近年多い。そのあたりのアイデアは多分地元の方がたくさん持っていると思うので、様々な英知を集めることができると思う。また、排熱は熱交換して冷気も生み出せるので、栃木で行っている洞窟利用による付加価値型の保存・保管事業など、雇用が生み出される里地里山活用みたいなものも、仮説でも良いのでそろそろ議論して良いと感じる。そうしたことが線となり、更に面としていくためには、ダイナミックな経営的目線が必要になると思う。

●エコからエコノミーとエコロジーに分かれるが、相当早目にエコノミーに手を打っていかないと、エコロジーが引っ張られるというような気がしているので、地元の人達が自発的な動きの中で経済活動を早く始めたほうが良いという気がしている。１つ気になっていることは、農作物直売所を現状の出荷体系の中で経営すると、端境期には何も並ばない直売所となってしまう。基本的に農家は市場競争力のあるものしか生産しないが、直売所の場合は市場競争力のないものも陳列する必要がある。その場合、他の事例を見ると、直売所に適した生産形態となるまでに５年～１０年位の期間が必要となる。つまり、事前に準備を進めないと直売所の経営は無理ということである。よって、エコノミーのほうも、無理のない範囲で少し早目に手を打ち始めるということが地元の皆さんの元気にも繋がるという気がする。

●早目に小さく産んで、付加価値をつけながら大きく育てる工夫が必要であることを実感する。

●温浴施設や外食店ができても地域の特産品がなければ困るので、早めに準備を進めるべき取り組みもある。

●吉田区の農家は後継者問題などを有しており、地域の特産品を安定的に生産及び加工することを果たして本当にできるのかどうか見極める必要がある。

●この地域の農業振興は、既に手遅れかもしれないという危機感を持っている。農業振興に関する良いアイデアがないものかと思う。

●日本の農業は、農地の集積化と企業化を進めないと難しいことは分かっているが、耕地整理するにしても自己負担は莫大であり、なかなか踏み切れないのが実情である。

●これまで耕地整理されなかった小さな農地を逆手に取ることも可能だと思う。

●田園の中で様々なことやりたいと考えている個人の方はたくさんいると思う。例えば、既に印西市内では非常に見晴らしの良い場所でギャラリーを経営している方、カフェを経営している方、斜面を活かし陶芸の窯を造った方、農家住宅を買い取って陶芸をやられている方など、そうした文化的なことを独自にやられている方々がいる。また、有機栽培された信頼と安心の地場の食材を朝仕入れているフレンチや中華も増えてきたが、若い奥さん方などに限らず、高齢者の方にも評判は広がっているようである。吉田区には少し長居してくつろぎたいというような恵まれた環境や場所がたくさんあると思う。また、印西地区は外部から優秀で腕の良い人達が結構集まってきており、そういう人達がある程度纏まってくると、それだけで元気が生まれる。その際の問題は里山地区に店舗等が集中し過ぎてしまうことによる水質汚染だが、集落エリアの生活インフラの整備とリンクさせながら、新しい人達が入りやすい、新しい人たちが事業を起こしやすいようにしていくことが必要だと思う。

●地域コミュニティーに還元するような形となれば、受け入れていけるはずである。

●地元の後継者が定住しやすい住環境のためにインフラを整備するというだけではなく、新住民による新しい活動を考え、連鎖を考えながらインフラ整備を進めていくことも必要だと思う。

●地域振興策のアイデアの一つにクラインガルテンがあるが、現状において家庭菜園をやりたい人は非常に増えている。家の目の前に家庭菜園あれば理想的だが、ある程度の距離にあったとしても農業指導のある家庭菜園つき住宅というのは最高にセレブリティーな住宅になりつつある。こうしたことを産業として考えていくと、実は日本の農業のあり方の一つの答えでもある。大量化・大規模化は、結局アメリカ型だが、イタリアやフランスでは、極端に言うと農地を集積させるのではなく農作物をブランド化していくという方向性であり、その先は観光に繋がってくる。また、近年国内でバター不足の騒ぎがあったが、そうしたことが頻発することによって、国内で小規模酪農や小規模畜産という取り組みが始まってきた。こうした取り組みは地元の人ではなく、外から来た人が頑張って始めるケースがほとんどである。そうした経営的な視点から農業振興を考えると、必ずしも大規模型にする必要はなく、先ずは吉田版としての仮説を考えるべきだと思う。

●ヨーロッパの都市近郊にはクラインガルテンが多く整備されており、幾つか実際に見てきた。クラインガルテンを構成する要素は、昼間利用の小屋・野菜・花・芝であるが、本場の考え方ではっきりしていることは、小屋へ宿泊させないということである。また、日本のクラインガルテンのように個人の占有スペースが多いと管理が疎かになった際、雑草が生い茂るなどして見た目が汚いので、公共側の関与が多い公園整備の一環として取り組んだほうが良いと思う。

●クラインガルテン的なセカンドハウスを建築し、週末は友達とバーベキューなどをしながら過ごす印西市の裕福な人達を知っているので、建設候補地の近くでクラインガルテンを展開すると面白いのではないかと考えたことはあるが、どれだけ需要があるのかは分からない。

以上

委員意見の概要（第４回会議）

地域振興策のアイデアについて

●環境学習については、２市１町に非常に熱心な方が多いので、余り悲観的にならなくて良い。吉田区だけで担うのではなく、２市１町全体の識者に手伝ってもらうという考え方で、気楽に考えていただいて良いと思う。また、食育教育や食農教育など、もっと幅広い活動の拠点として利用いただくことも大事なことである。

地域振興策総合パッケージ（案）について

●贈答米については、企業は虚礼廃止の方向なので、むしろより広く援農という考え方が良いと思う。企業の社会貢献として、援農は非常に目に見えやすいボランティア活動で、割と各企業は力を入れている。贈答と小さく考えるのではなく、提携した企業の社員に食べてもらうことや、追加資料として提出のあった「ハッピー米」、また、里地里山との連携からすると、林の下草堆肥を用いた有機農法によるブランド化など、もっと幅広く農作物が流通する方策を考えるべき。

●贈答米としているネーミングを再検討すべき。

●建築業者と農家とタッグを組んで、社員が農作物を購入している事例がある。

●千葉県内でも様々な取り組みがあるが、小湊では、某会社の従業員が里山支援に取り組んでいる。

●贈答米はあくまでワンオブゼムで、米に限らず農作物を上手くブランド化すれば、ふるさと納税の返礼品にもなる。

●国交省が道の駅を認定する要件の中で、防災拠点化ということをかなり持ち出してきていることから、総合パッケージのイメージ図に「防災拠点」を加えたほうが良い。受水槽に蛇口を設置しておくだけで非常用の備蓄となることや、トイレで水が使えない際のマンホール型トイレなども考えられる。

●国土強靱化政策の方向性に合致し関係予算も活用できることから、総合パッケージのイメージ図に「防災拠点」を加えることに賛成する。

●複合的な集客機能を果たす道の駅的な集合体とスパ関係が安定的に稼働すると、一つの大きな歯車となり、他の地域振興策においても非常に良い影響が出る可能性があるが、問題点としては、立地条件により集客が非常に左右されてしまうことである。それは、理念性、シンボル性、ランドマーク性、知名度、行きやすさ、利用しやすさなど、色々な要素が関わってくると思う。この地域の場合、田園的な魅力づくりを今後トータル的に進めるということであれば、まず必要条件としてアクセス性が考えられるが、国道16号線から吉田区へ至り、更に通称アジサイ通りを経て日医大方面へ向かう県道八千代宗像線が持つ意味は非常に大きいと思う。また、計画市道松崎吉田線は、千葉ニュータウンの中央駅ゾーンや牧の原駅ゾーンからのアクセスが極めて良好なので、この２路線と道の駅的な施設をリンクさせること及び２路線の接点のエリアの状況も少しアレンジして考えないと、この地域の魅力が活かされず、地域振興策は成功しないのではないかと思う。

●道の駅の場合、アクセス性の良い場所でないと本当はいけないのかもしれないが、そうもいかない事情もある、そういう状況をどのように打開するかという課題はある。

●これまで、この地域の地域振興の検討を進めてきた中で、道の駅という概念が示された。

●道の駅という概念は非常に親和性が高いことから、他の全ての地域振興策を吸収することができるが、この地域の振興を図るための事業が、道の駅を造るための事業に変化してしまうことをかなり恐れる。道の駅の認定要件を整えることを目的とするのではなく、絶えずこの地域の振興という原点に一度戻って踏み出す、また戻って踏み出すというような事業展開をして欲しいと思う。先程アクセス性に関する意見があったが、道の駅の立地は車が多く通行する場所が一番良い。最低でも１万台近く通行すれば何とかなるが、その点を重視するとこの地域の振興のために行う事業が、交通の利便性だけで動いてしまう。そうしたことが果たして良いのかどうかという問題も議論になると思う。

●地域振興策で掲げる道の駅は国土交通省で定義する道の駅ではなく、道の駅的な施設として「的」が入っていると理解している。道の駅というのは検討委員会において便宜的に用いている言葉であり、食べる、売る、湯につかる、遊ぶ、色々な機能を持つ施設の総称と認識している。

●道の駅を造る前提で出発したわけではないが、地域振興策の検討を進めた結果、道の駅の機能に近い施設となったことから、名称を道の駅としたのだと思う。

●結果的に道の駅の認定を受けると、恐らく入場者が二、三十万人上乗せされると思う。道の駅はそうした大きなパワーを持っているが、余りなぞらないような形で検討を進め、最後に道の駅という名称をかぶせるという位の考えでいたほうが良い。

●道の駅という固定したイメージで固まってしまい、多面的に検討を進めている複合施設が矮小化されてしまう恐れもあるので注意したほうが良い。

●道の駅としての事業に流れてしまう危険性は重々承知しているが、懸念した点は道路である。県道八千代宗像線と計画市道松崎吉田線の交差点付近の状況、計画市道松崎吉田線の構造、幅員、歩きやすさ、安全性、サイクリング道路としての可能性のほか、地域振興策を台地上だけではなく台地の上下で展開することなども分析して検討を進めることは大切だと思う。

●道の駅は、認定さえ受けてしまえば抜群の宣伝効果がある。栃木県で利用した道の駅は主要道路ではない道路をアクセス道路として使っていたので、道の駅は色々なパターンがあるものと認識している。

●道の駅的な施設は、複合施設として位置付けないことには一歩間違えると単なる農産物販売所で終わってしまう。

●来月開催する周辺住民意見交換会の場で、道の駅的な構想も説明すると思うが、住民側が持っているイメージ・希望・期待値と、道の駅的な複合施設という壮大な構想との間にギャップが生じるのではないかという懸念を持っている。具体的には、住民側は行政の全面的な支援を前提とし、行政側は住民の主体的な取り組みを前提としていることである。そうした部分で混乱が生じ、住民側から拒否反応が示されることを心配する。

●夢を膨らませて現実化していくというプロセスに行ったり来たりがあって良いと思う。

～以下、吉田地区周辺の航空写真を囲んだディスカッションより～

●この総合パッケージを吉田区の住民が見たら、素晴らしい、生まれ変わるといった夢物語になってしまう。

●総合パッケージの整理は必要である。

●民間のリゾート開発業者と組んだ一大リゾート自然公園開発であれば良いかもしれない。行政の相当なバックアップも必要である。

●台地の上下に施設を分散させて屋外エスカレーターなどで繋ぐ施設配置の考え方もあるが、事業費が高額になることから台地の上に施設を集約させることでも良いと思う。

●計画市道松崎吉田線が重要な要素になる。この路線が完成しないことには事業が進まない。

●道路は完成するので心配ない。それよりも、どこを通すかが重要である。

●泉カントリー倶楽部の進入道路は、良いアプローチである。

●泉カントリー倶楽部の進入道路の勾配は、非常に良い。

●現状でばらばらになっているエレメントを纏めると、全体として社会的・歴史的な要素を含むある種の公園のようなものとなるが、フランスで有名になったエコミュージアムとして、地域全体を丸ごとミュージアムのように整備していくという考え方がある。日本語に直すと「地域丸ごと博物館」といった表現になるが、集落内における事業展開も含め、そうした形でくくると良いと思う。例えば道路整備について、生活利便性向上のための整備ということではなく、「地域丸ごと博物館」としていくための措置として整理すると、ばらばらになっているエレメントが一つに纏まると思う。また、「地域丸ごと博物館」のようなネーミングは、「里山ミュージアム」など他にも色々考えられる。地域のブランド化に適したネーミングになると良い。皆で抽出した要素が点々と挙がっているので、何とか一体にすべきと思う。

●今、国が進めている地方創生をこの地域でも進めなければならない。例えばこの地域を特区的なものに指定し、新たなモデル事業として進めると地域が生きてくる。

●特区というのは、今の制度をクリアするための措置だが、特にその必要はないと思う。

●特区の必要はなくとも、印西市を含め地方創生の案は出さなければならない。

●計画市道松崎吉田線は松崎区をまたぐので、不安がある。

●噂レベルだが、松崎区は大分軟化してきているということを聞いている。

●人が来て、汗をかいて、お風呂に入って、食事をして、夕飯のおかずや新鮮な野菜を買って、要するに人に来てほしいための環境学習、食農教育を考えるべき。

●手間の掛かる林内の下草刈りなどは、外部の「吉田友の会」に担ってもらうことも考えられる。

●印西地区には、活発に下草刈り、間伐、また、農作業まで行っているＮＰＯ法人がある。

●お風呂だけでは人は来ない。環境学習などの場でもあることから人が来るという構造だが、直接的な収益のある取り組みと、付加価値を与える取り組みを一緒にしてしまうとまずい。

●今、ソフトウエアの話と、小さな附帯施設の話と、大きな施設の話が混在してしまっているので、ＫＪ法で囲っていく必要がある。例えばお風呂があって、道の駅の直売所があるとしたら、その連携がどのようにとれるのか、また、その他に何が関連するのかなどを議論したほうが良い。周辺住民意見交換会を心配する意見もあったが、これだけアイデアがある中、実際に何を展開するのかと聞かれたら困ってしまう。

●これを見たら地元は大変なことになってしまうと思う。

●吉田の方が挙げた策から一遍並べてみて、少し整理する必要があると思う。

●吉田の住民がこの振興策についてこられるか心配である。

●たくさんのアイデアがあるが、地域に事業を引っ張る人材がいるかどうかというのが少し心配である。排熱を利用する先端農業を展開するにしても、吉田だけではなく印西地区全体の有能な方、意欲のある方が取り組んでも構わないと思う。

●この手の事業は、特に初期段階においてリーダーシップのある人、熱意のある人がいないとなかなか進まない。吉田区の皆さんが主体的に取り組むことが一つのコンセプトになっているが、逆に負担になってしまってはいけない。周辺住民意見交換会で、「施設の割引券だけもらえば良い」、「上下水整備だけやってくれ」、「神輿直してくれ」などと言われかねない。

●他の地域振興策は良いが、サンセットスパ＆リゾートは、将来的な老朽化を含め大きなランニングコストが掛かる。また、来場者数に不安がある。

●サンセットスパ＆リゾートは、地域振興策の目玉である。

●まだ事業スキームの検討まで進んでいないが、官がやろうが、民がやろうが、集客で収益を上げて、維持管理や保守なども含めて、きちんと経営しなければならない。

●人材も必要だし経営もしなければならない。

●将来的な修繕や模様替えの際、どこが運営するにしても当然積み立てをしておくことは必要だと思う。

●印西地区内の民間温浴施設と比較すると立地条件は良い。

●立地条件は他地区に負けていない。

●温浴施設に赴くということは、自宅では味わえない非日常を求める場合が多いので、台地からの眺望と解放感に優れることは最大の特徴だと思う。

●印西地区内及び周辺の民間温浴施設は多くの集客があるが、この台地は自然環境を活かしてのんびりできることが、他にはない要素だと思う。なお、当該民間温浴施設は温泉のケースが多い。

●温泉があったほうが、集客的には良いと思う。

●温浴施設は割とマーケティングが簡単で直ぐに答えが出ることから、早めに専門会社に依頼したほうが良い。

●大手のリース会社がシステムを持っており、採算が合うかどうか分かる。

●この事業の場合難しいのが、単に採算だけで考えるべきことではなく、後々のことを心配しなければいけないものの、地域振興を考えることである。

●複合施設として展開するとなれば一遍にはできないなので、最終的な形を掴みながら優先順位を持って取り組むことを住民に説明する必要がある。展開する第一段階としてはサンセットスパ＆リゾートが考えられると思う。

●一概には言えないが、道の駅と温浴施設は相性が良い。全国的にはかなり集客している。
●吉田区に農家が少ないことに少し驚いた。

●農業の担い手問題を含め、10年後に果たして谷津田の美田が残っているかとても心配している。手を打つ時期は恐らく今だと思うが、具体的にはなかなか難しいところがある。極端な話、現状の谷津田の美田は奇跡だと思っている。

●印西市には色々な優良企業が進出しているので、そこに勤務する人達が農作業で汗を流す場として、早めに提携してほしい。

●室内で研修ばかりしているのではなく、こういった場所に連れ出し農作業を行うほうが良い。

●意見書にあった学校機能としてのスコーラは、地域振興策として取り組むべきことであることを決定して良いと思う。

●スコーラは良いと思う。学校の意義は、ただ農業だけというよりも、環境学習となる。

●吉田区には少数の専業農家しかおらず、周辺の集落も同様であることから、単純に直売を主体にした道の駅では、将来の世代が経営不振にあえいで、そのうち閉鎖するのではないかと頭によぎる。よって、普通の道の駅ではなく付加価値をつけた話題性が求められる。

●志の高い道の駅にすべきです。

●道の駅は、その名前を掲げているだけであり、各駅で個性がある。その個性を構成する要素を束ねるにあたり、スコーラという学校機能の概念は優れている。先程の「エコミュージアム」は、分散配置されている事業や施設を統合して動かしていくための仕組みと考えると良いと思うが、日本語にすると「地域丸ごと博物館」と表現さて、建物になってしまう。例えば祭りであっても有形のもの、無形のものがあり、それを束ねていくための機能がここに纏まるという理解だと思う。よって、タイトルの中に具体的な名前が入ってしまうといけないが、「学校」は凄く束ねていきやすい気がする。

●スコーラの頭に吉田を付けるなど、何々スコーラとしたほうが良い。

●高松丸亀町には、私が社長をしている「まちのシューレ963」というのがある。シューレはドイツ語の学校だが、スコーラやシューレは良いと思う。「何かな」と思って来訪すると思う。「まちのシューレ963」は、讃岐のもの３分の１、四国のもの３分の１、世界から良いもの３分の１を集めたライフスタイルショップで、中に入るととても気持ち良く、何時間も買い物をしているという場所である。

●神崎の道の駅は賑わっているが、やはり行くとわくわく感がある。発酵のまちということで売っていることもあるが、神崎にわざわざ行かなければ買えないものもある。

●地方創生に関する補助事業の対象となれば、関係市町の負担が減る。

●地方創生の取り組みが、あと10年続くかどうか分からない。

●10年はもたないと思う。

●政権によって変わるが、取り組みの名前は変わっても、テーマは変わらない。

●管理者が代わるなど周辺の状況が変わったときに、せっかくのアイデアが振り出しに戻ると残念なので、早目に網を掛けてしまったほうが良いと思う。

●吉田株式会社が電気事業者と組んで、売電事業を行うことも考えられると思う。

●売電の自由化は進んでいるが、有資格者の確保など電気事業法の縛りは非常に厳しいので、電力会社に売るのが一番儲かると思う。地域振興は熱利用が中心となる。

●やはり吉田特産の植物工場をやるしかない。

●総合パッケージのイメージ図に、余暇交流イベントを掲げているが、これに観光を加えると良いと思う。訪日外国人も含め、外国人は結構こういうところが好きだと思う。国外のパンフレットで紹介されると、特にアジアやヨーロッパから結構来ます。

●そのうち、英語表示板や通訳が必要になるかもしれない。

●泉カントリー倶楽部の社員と付き合いがあるが、泉カントリー倶楽部の客は、恐らく95%が東京の人である。ほとんど地元の人はいない。支配人の夢を語ってもらったが、できればお父さんだけが来るのではなくて、お母さん、子供も一緒に来て、お母さん、子供は近くで遊び、お父さんはゴルフをして一緒に帰るようなことができれば良いという話をされていた。

●集客施設、集客ゾーンができるということは、しっかりとしたアプローチ動線を考える必要があると思う。県道八千代宗像線と計画市道松崎吉田線の交差点部をポイントとして押さえるべき。この交差点部は目立つ場所に位置することのほか、車両の滞留・集中を処理しやすい。また、集客施設へ向かう右折レーンを設置するなどの工夫を考えておかないといけないと思う。また、泉カントリー倶楽部の進入路は、シンボルロード的に上手く活かすと、素晴らしい地区という予感を持たすことのできる理想的な集客施設アクセス道路になると思う。集客施設アクセス道路は、ランドスケープを考えながら記憶に残る入口の仕立てが必要だと思う。また、広大な台地内については、各ゾーンの特色や潜在的な性格を活かした施設配置を行い、循環動線の考え方をしっかりと持つべきだと思う。また、清掃工場へのアクセス道路は、一路線ではなく循環可能な二路線による動線計画を考えるべきだと思う。以上による検討を行うことで計画イメージが明確となり、各エリアを活かせるプランニングに繋がると思う。

●集落の環境改善と合わせて、地域住民がこのプロジェクトに参加する方法を考えたい。

●地域丸ごと博物館として、インフラも含め美しい印西の集落の典型をきちんとつくる必要がある。

●今後、どのような地域振興策が具体化するか分からないが、集落内は別として台地上に新たに整備する施設の排水先は下水道が望ましい。

●周辺住民意見交換会では、フィールドミュージアムなどの全体構想を掲げて説明したほうが良い。

●地域振興策の各策は、重要なエレメントと小さなエレメントが混在しており賑やかだが、重要な柱は限定されている。

●通常こうしたプロジェクトの基本構想は、フィールドミュージアムやスコーラなどの大きなコンセプト、各ゾーン及び主要施設の整備基本方針、動線計画及び具体化する手法を纏める。

●周辺住民意見交換会では、地域の方々が地域振興策に対しどのように参画するのか説明したほうが良い。

●地域振興策に全国公募による外食店があるが、できる限り地域の方々で取り組んでほしい。

●当面は現世代が取り組んでも、将来的には次世代が取り組むこととなる。よって地域振興策への参画の仕方は最も悩むところである。

●人材不足を懸念する声があると思うが、事業が始まると人材は集まってくる。

●地域で人材が不足すれば３市町の住民から求めても良いと思う。

●人材を３市町から求めることは、何のための地域振興だとなりかねない。

●人材を３市町から求めても、施設は吉田区にあるのだから地域の振興になる。
いやいや、吉田区にあるから。

●地域の人達は、自主的に関与すべき。

●会社経営する役員は無理だが社員は希望する人、パートの掃除係を希望する人など、資質もあることから、関与の仕方は人それぞれである。

●個人的には吉田株式会社として取り組むイメージが強いが、そうした受け皿の中で、暇な時間に掃除しても良いとか、リサイクルの選別で小遣い稼ぎたいとか、色々なパターンがあって良いと思う。地域だけでは人材が揃わないのであれば、３市町で考えれば良い話だと思う。

●地域振興策の展開で雇用が生み出せれば、大したものである。

●会社経営に関しては、マネジメントが少し心配である。

●会社経営は、特に最初に行政側のバックアップが必要である。

●どのような方法であっても吉田区のコミュニティーを存続させたいと思っている。吉田区の人達がある程度子孫を残せて自分達は雇用だけで御飯を食べるのでも良いし、経営者は３市町から来てもらっても良い。

●行政の予算は少ないだろうから、地域振興策を国の国土強靭化政策や地方創生政策と合致するよう上手く化粧直しをして、出来るだけ補助金を得るといった知恵を絞る必要がある。

その他

●周辺住民意見交換会は、松崎区に対する説明の仕方と、吉田区に対する説明の仕方が全く同じとなることはあり得ないと思う。事業に対するスタンスが全く異なるので、円滑に進むよう配慮が必要である。

●松崎区との意見交換会について、松崎区も生活道路の問題で困っているという現実がある。松崎区は、次期中間処理施設整備事業の生命線となる計画市道が通るので、吉田区と同様に道路整備、交差点改良、交通安全性向上策などの改題を地域の意見を聞きながら対応するという方針又は姿勢を表明したほうが良いと思う。

以上

委員意見の概要（第５回会議）

地域振興策総合パッケージの概要（中間決定案）

●道の駅を整備しても売るものがなければどうしようもないが、米については大分突っ込んだメニューが示されているものの、残念ながら畑作農業については、この資料からは余り見えてこない。もう少し真剣に突っ込む必要があると感じている。

●道の駅の狙いに関し、これまで色々と理念的なことを申し上げてきたが、大分欠落している。例えば、道の駅は老人がお小遣い稼ぎする場であり、商品を搬入することによって他の人たちとの出会いや交流があることから、コミュニケーションの場という点での価値というのは非常に大きい。原案の地域活性化の中に包括されているとは思うが、高齢者の活性など、分かりやすい言葉も加えると良いと思う。

●里地里山に整備する環境図書室は非常に良いアイデアなので、積極的に展開する方向性にすると良い纏めにまると思う。

●ホタルは、凄く良好な観賞対象なので、もう少し触れてもらいたいと思う。

●暮らしの観光（各種行事）は、他県の公共団体が非常に熱心に取り組んでおり、皆が楽しく参加して農家も喜んでいる。大変良いアイデアなので、よりアピールするよう磨きをかけて欲しい。

●企業米は大変良い整理となったが、狙いの欄で一番大事なのは、企業の社会貢献の一環として取り組んでもらうという社会的公益性が非常に高いことなので、そうした点をアピールしたほうが説得力を持つと考える。

●全体構想の表現が少し弱い気がする。

●非常に良い理念が掲げられたが、全体構想で浮き彫りになっていないと思う。

●全体構想の「まるごと」は非常に分かりやすくて良いが、他の基本理念がなくなってしまった。

●地域まるごと博物館というのは、やはり理念である。全体構想で掲げた３点に含まれていると思うが、３つに分けてしまったこと及び「地域」の後に「を」という助詞を入れたことから、ややパンチが弱くなり理念が分からなくなってしまったという感じがする。

●中間決定案の段階なので、特にシステム部が落ちていてもやむを得ないと思うが、吉田区の集落を元気にするということが大元の発想だと思う。ところが、集落における主な地域振興策がインフラ整備だけというのは、少し寂しいというか清掃工場を熱心に誘致した吉田区の情熱が伝わってこないという感じがする。集落の連携を強めて振興させていくという方向性は皆さん異論ないと思うので、現時点でアイデアがないのであれば、地域との連携を深めていくという理念や方向性を最終報告までに集落の項目に書き込むと良い。縁側カフェなどの取り組みは、集落を意外と元気にするところがあるので、集落についてはインフラだけではないと感じる。

●地域振興策の検討は夢なので、次々アイデアを足していくこと良いが、宿泊施設については反対ということではないものの大きな懸念を持っている。宿泊施設を運営するとなると24時間誰かが面倒見なければいけなくなる。事業スキームは今後の検討だが、仮に吉田株式会社が受けた場合、それが可能かということをある程度検討したほうが良いと思う。

●宿泊施設を含む各地域振興策の展開が実際に可能かどうかは今後の議論であり、現段階では一つのアイデアとして盛り込んでいると理解している。

●全体の纏めにもう少しインパクトや説得力があれば良いと思う。

●集落での展開が少し寂しいと思う。これまでお祭りの話も出てきて、縁側カフェ、市民の森などもあったが、要するに賑わいを創り出していこうということである。持続可能な集落づくりや持続可能な集落など、吉田区がサステナブルに現状よりも発展していくというイメージの言葉が欲しい。

●全体構想としては、この地域の地形、自然、歴史を全面に押し出すことによって地域のサステナブルな活性化を進めていくということであり、後は書き方の問題かもしれない。

●道の駅、インフラ整備、自然公園的整備を進める理由の説明が欠けているかもしれない。

●これまでの個別の要素から纏めるところで言うと、非常に良くできていると思う。

●吉田区の里地里山というよりも、そこに住む人々の自立したコミュニティの伝統を守ることが重要だと考えているが、その点をどのように表現したら良いのか分からない。

●総合パッケージの最初に理念みたいなものを書き加えることが考えられる。

●吉田区は、自助の精神が強い。

●理念があって手段という順番のところ、原案では逆になっている。吉田区が本当に求めていることは、もちろん生活の向上だが、コミュニティの存続も重要なので、その点を表現したほうが良いと思う。また、自然公園的整備とあるが、自然公園というのは、やはりイメージからすると大自然となる。人間の手が加わった里地里山のイメージと合わない気がする。

●原案ではパッケージ説明の順番が、全体構想、展開する場所、主な地域振興策、個別の目的、実施主体等、供用開始時期となっているが、少し分かりにくいという印象を受けた。順番としては、なぜこういう策が必要なのか、どういう理由で、あるいはどういう目的でということが先ずはあって、例えば集落のインフラ整備の表現は、「この地域を支えるコミュニティの持続と再生に必要なインフラ整備」、あるいは「地域の活性化に寄与するインフラ整備」など、シナリオ的な考え方や、理念的なワードをしっかりと打ち出すことが必要だと思う。

●地元から下水道整備という要望が出ているが、し尿も含めた生活排処理について、住宅がコンパクトに固まっている地域は下水道処理、散在する集落は農業集落トイレ排水施設、更に散在する集落は合併処理浄化槽というのが水処理行政の基本的な考え方である。吉田区は、合併処理浄化槽が適していると思うので、下水道整備で突き進むのではなく、合併処理浄化槽の選択肢は残しておいたほうが良いと思う。

●吉田区における合併処理浄化槽の普及率の実態は掴んでいないが、想像すると恐らくニーズはあると思う。

●一団の集落部は、ミニ下水道的なものにしても悪くはないと思う。

●台地で展開する地域振興策の施設は、当然のことながら上下水道を整備すべきだが、集落も合わせて整備するとなると、膨大な経費が掛かる恐れがある。

●インフラを整備する場合、組合が単独で唐突に進めるのではなく、予め全体を捉えた総合的な計画を策定し、事業主体や整備手続きを明確にする必要がある。

●美しい村づくりに向けたシナリオと取り組み方の合意をきちんとしておかないと、各策が有機的に繋がらない非効率な事業となる可能性があるので、調査計画は工夫したほうが良いと思う。

●総合パッケージの纏め方、見せ方の問題だが、短期・中期・長期における時間軸の説明も加え、幅広い年齢層で構成されている地域住民への説得力を持たせるべきだと思う。時間軸の説明がないと、ただの羅列で終わってしまう。

●空間的展開と時間的展開の両方が必要となる。

●集落における展開は、美しい村づくりに絡めると、垣根の話や建物のデザインなどにも触れたい。

●地域の将来をどのようにしたいのかというビジョンを明確にしないと、結局、中途半端な取り組みとなってしまい、一貫性や持続性に欠けてしまうと思う。散策や縁側カフェによる飲食、また、芸術家を招くなど、外部の人を受け入れる「開かれた村づくり」、「憩える村づくり」というイメージもあって良いと思う。

●この総合パッケージを作成する起点は吉田区のブレーンストーミングなので、幅広い内容となっているが、もう少し上手に編集する作業が必要となる。そして、地域振興策の可能性について地域に訴える時間が必要となる。

地域振興策の概略事業スキームについて

●確かなことは確認していないが、整備後二十数年経過している愛媛県のある道の駅は、地域人口と来場者の減少により近く閉鎖するとの話を聞いた。この地域で道の駅を展開し、結局青色吐息で撤退となったら困る。本当に道の駅を整備して良いのか不安がある。また、事業スキームに関しては、官がやろうが、民がやろうが、第３セクターがやろうが、重要なのは企画内容だと思う。企画内容が正しければ誰が主体となっても儲かる。だからこそ、複合施設となり得るようにスコーラなど色々なアイデア出しているところであるが、企画内容の検討は、来年に予定している整備協定の締結以降も続くと思うので、事業スキームは相当時間を掛けないと決まらないと思う。

●地域振興策の基本的なメリットは、地域で建設コストを負担しないことと、排熱エネルギーの供給が受けられることが挙げられる。また、何より東京に近い里地里山という立地をどう活かして、どうアピールできるかという企画を作れるかどうかがポイントとなる。

●廃止となった道の駅だが、賃借していた土地の契約更新問題で廃止したケースはある。問題は全て売り上げである。道の駅の設置効果が出ず、マイナスのほうが大きいということである。地域を活性化しようとする事業が赤字を出すと、地域活性化をかえって阻害することになるので、決断をして造るところと、決断をして止めるところが出てくると思う。現在、道の駅は1,059駅あると思うが、道の駅というのはああいうものだという認識になってしまい、経営が赤字になっているところもあるではないかという単純な批判に結びついてしまう。

●道の駅は、色々な事業を束ねても道の駅という形になるといった極めて高い親和性を持つことのほか、認知度も上がってきたので、道の駅という方向は正しいように思うが、事業の組み立てと推進は、吉田区の住民、印西市、関係者における志の総和次第である。よって、道の駅だからどうだこうだという議論は最後にしたほうが、取り組みのイメージを膨らませるのに良いと思う。

●現在は道の駅の導入方法がパッケージ化されてきたが、私が最初に手掛けた道の駅は、道の駅の制度がないときに計画を立てて、施設がオープンする直前に道の駅という制度ができたので大変な思いをした。取り組み内容の説明、運営会の説明、地元住民への説明は大混乱となった。上手くいっている道の駅は、脳みそが汗をかくまで悩んだ経緯があるような気がする。

●道の駅は全国区なので分かりやすいが、公設民営による地域活性化の取り組みは、道の駅以外にもたくさんあると思う。

●官の関与が少ない取り組みが成功しているように思う。

●資料の事業スキームを見ると、施設の清掃や軽微な作業以外、吉田株式会社と組合が随意契約するのは非常に難しいと思う。

●軽微な作業以外にも、排熱を利用した農業事業など、吉田株式会社と組合が随意契約できる事業はたくさんある。

●資料の事業スキームは、吉田株式会社が参画しやすいように配慮したものもある。住民側は適すると考える事業スキームを選択することになると思う。公共が施設を設置し運営は吉田株式会社で行うことを目指したいが、本当に運営できる能力があるかどうかが問題点である。

●道の駅は、当該地域と何ら関係のない会社が指定管理者となっているケースもある。

●道の駅は、地域活性化のコンテンツとして優秀だが、過疎地域のジレンマというものがあるような気がする。地域の「人」を動かすきっかけになれば良いと考えているが、参画条件を余り良くすると「人」は動かない。

●道の駅の運営は、最終的には人材次第だと思う。

●道の駅の先行事例見ると、やはりリーダーの資質が重要だと思う。

●参考資料で紹介されている道の駅の事例は、恐らくとてつもなく追い込まれた人がいるはずである。それが反発力となって事業化が進んだと思う。

●過疎地域の葉っぱビジネスも同様に、追い詰められて最後は情熱だけで進めた経緯がある。

●この地域の条件は決して悪くない。東京近郊かつ排熱供給があるので、失敗することのほうが想像できない。

●他地域の道の駅よりも条件は遥かに良いと思う。

●主要な地域振興策の一つに「自然公園的整備」とあるが、この表現では国立公園、国定公園、都道府県立自然公園というイメージに繋がってしまうので、「フィールドミュージアム整備」のほうが良いと思う。

●主要な地域振興策の一つに「排熱利用事業」とあるが、設置者が民間となっている。しかし、排熱利用事業を展開するために必要な上下水道などのインフラは、公共側で整備すべきと感じる。

●排熱利用事業を展開するにあたっての官民分担は、現時点で明らかにする必要はないと思う。民間の活用は、色々なパターンがある。

●企業を誘致する際、その企業が独自にどこかの用地を購入して建物を建築できるのかどうかという都市計画上の心配がある。

●どのような排熱利用事業を展開するのか、また、官民分担が明らかになってからでないと詳細な検討はできない。

地域振興策の展開スケジュールについて

●個別の地域振興策のスケジュールを考えるのではなく、清掃工場の稼働開始前に展開できる策と、稼働開始後でないと展開できない策があることを把握しておきたい。

●「印西市ふれあいバス路線の延伸」は、平成４０年供用を目指すのではなく、計画市道松崎吉田線の開通と合わせて供用するスケジュールにしてほしい。

以上

委員意見の概要（第６回会議）

施設整備基本計画検討委員会第６回会議の報告について

●既に施設整備基本計画検討委員会の６回会議で、排ガスの自主基準は結論が出されているので、参考意見として申し上げるが、健康管理に関する基準は科学的データに基づいてきちんとした法規制があること、船橋市やふじみ衛生組合とは異なり、この地域は里地里山であること及び経済性を勘案すると前回計画並みの自主基準値で良いのではないかと考える。

地域振興策に関する意見書について

●追加提案のあった吉田ゲストハウスは、大変良い提案だと思う。白井市も姉妹都市との交換ホームステイを行っているので、このゲストハウスの利用対象は３市町に広げてもらいたいと思う。また、旅館業法のこと考えて無料という案になっているが、吉田ファンクラブのような緩い組織で、ファンクラブの会費という形でサポートしていただくことも考えられる。やはり、利益を得る人に何らかの格好で負担を求め、運営する吉田株式会社が困らない形と範囲で検討を進めたほうが良いと思う。

●吉田ゲストハウスは、どうしてもお部屋の掃除や洗濯などの経費が掛かるので、旅館業法を念頭に置きながら受益者負担のあり方を検討してみたい。

●吉田ゲストハウスは、建物を新設することのほか、集落内の空家を民泊的に活用することも考えられる。海外のお客様をゲストハウス的に地域と密着した形で宿泊してもらう取り組みに対する規制緩和の動きがある。印西市内でそれができるかどうか、継続検討したほうが良いと感じた。

●集客施設を整備しても交流人口は増えるが定住人口が増えるとは限らないので、都市計画法の地区計画制度を活用して市街化調整区域内でも新たな住宅を建築できるようにするなど、集落の計画的かつ持続的な再生を大きなテーマとして考えていく必要があると思う。

●地区計画制度の活用など、集落の計画的かつ持続的な再生を大きなテーマとして考えていくことに賛成する。この地域振興を印西市の地方創生の取り組みにしっかりと位置付け、必要に応じて特区申請などを行わないと、法規制などの関係で個々の地域振興策がスピーディーに進まない可能性がある。せっかくの構想が日の目を見ないともったいないので、まず大枠の網をかぶせるということを行政側で至急考えたほうが良いと思う。また、地域振興策は、健康診断の回数を増やしたり内容を充実させることも考えられると思う。

●地域振興策の案で掲げているＵターンやＩターンへの助成を実現するには、やはり提供できる家が造れないといけないと思う。それを可能にする手法として地区計画制度があることを住民の方々に良く分かってもらうことが必要だと思う。現状のままでは住宅の建築規制が非常に厳しい。人口回復や、集落を持続的に活力ある人で応援していこうというのであれば、ぜひ印西市から地域へ講師を派遣するなどし、早い段階からお互いに合意形成ができるような形で進めていくほうが良いと思う。

●総合パッケージの内容を見ると、恐らく法規制や事業費をどのようにクリアするのか、また、事業の担い手をどうするのかという総合的な検討を今後しなければならない。

●吉田マリーナについてだが、レクリエーションや湖水への親水性の問題で大切なこととして、印旛沼の印西市側にサイクリングロードがないことが挙げられる。また、吉田地区に広域レクリエーション上の拠点や集客上の拠点などができると、印旛沼一帯の例えば印旛沼公園や印旛西部公園などの観光資源を繋ぐ新たなバイパス道の整備により、観光レクリエーションルートの一つの拠点になると思うが、景観対策をほとんどしていない状況である。よって、このままでは地域の魅力について、道路が整備されればされるほど、どんどん悪くなってくるのではないかと心配している。せっかくある資源がネットワークされていないことも含め、印西市ではサイクリングロードを整備しようとしていないなど、印西市が地域の計画主体として構想を持っていないことから、将来像が見えない。結局、水辺の利用や、水面の利用についての許認可は、印旛沼の水域の保全や利用計画の中で、水辺レクリエーションの拠点にしていこうというような県レベルでの大きな方向付けがないと、話がなかなか通らないと思う。よって、印西市で地域景観や、環境資源として一体どうしていくのかという大きな計画がないことが非常に課題だと思う。そうした計画作りを委員会として、できれば関係市である印西市や県のほうに要望していくなどしないことには、吉田マリーナの構想は計画的・合理的な判断できないと思う。

●河川法や都市計画法を乗り越えて事業を進めることは大変なことだと思うが、今回、吉田区が清掃工場を受け入れてくれる方向であることによって、この地域と印西市に強いフォーカスが当たる。そのフォーカスは、必ず強い光となって県や国を動かしていくことになると思うので、非常に期待している。

●今年の初め頃、印旛沼にオリンピックのボート競技の本会場若しくは練習キャンプ場を誘致しようという話があった。オリンピックのボート競技というのは、長さ２㎞前後、幅が120～130ｍという基準があり、首都圏にはその条件を満足できる水域がほとんどないと聞いているが、印旛沼水域の師戸地先と新川は、それを充たすと思う。このように、首都圏の中でも水面利用という意味では素晴らしい資源で、非常に可能性に富んでいるので、その資源を活かすような方向が重要だと思う。吉田マリーナは水面利用の拠点になるので、一市民としても検討を進めて欲しいと思う。

●地域振興策として色々な良いアイデアがたくさん出てきた。印西市や千葉県とタッグ組まなければいけない面もあるが、やはり農業者の声がなかなか聞こえてこないので、少し寂しい感じがしている。道の駅や宿泊施設の運営は、提供する食材が基本となるので、農業者の声がもう少し委員会に届くよう、何とか工夫してほしいと思う。

●簡潔に申し上げると、恐らくこの先10年～20年位で農業者はほとんどいなくなると思う。半農の方は20～30％はいると思うが、自分が知る限り現状の専業農家は３軒だけで、跡継ぎもいない。農家の声を纏めると、半農半Ｘについては、おしなべて皆がＸだけを望んでいる。

●地域振興策の具体像が見えてくると、農作物を栽培するノウハウを活かして出荷してみようという動機が生まれるかもしれない。

●農業に関しては、老後の楽しみ的なこととして十分関心があると思うが、残念ながら生業としては難しいと受け止めているので、スコーラなどにより何十年もかけて人々を啓蒙して、農業問題に目を向けなければならないと思う。恐らく農業問題は吉田区だけの問題ではない。

●半農半Ｘの方向性が難しい場合、クラインガルテンなど、外部の方に生産の場を提供するという割り切りを持たざるを得ないと思う。

●むしろ農業の実態をより住民に知ってもらうことが必要だと思う。

●農業については、現状のような自家消費や一部販売程度にするのか、あるいは産業として捉えて６次産業化を目指すのかという方向性をきちんと定める必要がある。

●農業の方向性を定めるには、現状を把握する必要がある。方向性は実態と表裏一体の関係がある。

●この総合パッケージは、よく見ると盛りだくさんの内容となっている。今後、委員会が答申した後、実現性や連携によるシナジー効果などを地域と組合で検討する機会があると思うが、その中で地域から積極的な意見が出され固まっていくと思う。

●地域振興策は、できれば印西市のまちづくりのビジョンの中に組み入れて、地方創生の流れ、特区構想、訪日観光、観光地としての印旛沼など、色々な仕組み、予算、規制緩和を駆使し、農業問題も含めて正にパッケージ化されたモデル地区として問題提起すれば良いと思う。

●恐らく地域振興策の実施段階では、皆が走り回って色々な知恵とお金を引き出してくると思う。

●集客施設を整備するのであれば、複合的な整備を長期的に考えていくことになる。その際、印西市の都市マスタープランや総合計画の中にきちんと位置付けし、周辺整備に係る多方面の連携や調整を推進することが重要だと感じた。なお、現在、印西市では、計画期間が平成28年から32年の総合計画第２次基本計画を検討中である。

●地域振興策の円滑な推進は、実現するかどうかは別として、３市町、県、国との連携が非常に重要であることをできれば答申書に明記したほうが良いと思う。農業問題も含めてこの地域振興策は印西地区における一つのモデルケース及び突破口になる。

今後の調査審議事項について

●印西市長は、組合の管理者でもあるので柔軟に受けとめていただけると思うが、私の苦い経験で、とある市で景観法に基づく景観地区の指定を睨んだ基礎的な委員会が設定され、かなり集中した議論を行ったが、纏める段階になって現総合計画で触れていないので次期総合計画まで棚上げという非常に無駄な時間と労力を使った苦い経験があるので、決してそうした事態にならないよう、印西市に対し、多少総合計画とのずれがあっても柔軟に対応してほしい旨を早い段階で伝えるべきだと思う。
ほかに何かございますか。

●今後審議する総合パッケージの評価について、パッケージの内容は多種多様で個々に事業性や効果など色々触れると思うが、事業主体の制限など、地域振興策を実現する上での課題や法的な制約条件、あるいは時間的な制限などを整理すべきだと思う。

●本日、吉田ゲストハウスと吉田マリーナの事業性は余り議論しなかったと思うが、今後、審議を進めるべきだと思う。

以上

委員意見の概要（第７回会議）

施設整備基本計画検討委員会第７回会議の報告について

●エネルギーバランスについて、基本的に常時14.7GJ/hは安定的に地域振興のために使えるということだが、このエネルギーの全てを地域につぎ込んで良いかどうかという議論は少しあると思う。売電と施設利用の適性なバランスという視点で検討したほうが良いと思う。

地域振興策の概略事業スキームについて

●排熱利用事業の事業スキームだが、第三セクター方式もあり得る。

●事業スキームの対象事業を４つに分けたことによる相互の関係が良く分からない。

●事業スキームは、あらゆる可能性を考慮し、少し幅を持たせて設定したほうが良いと思う。例えば仮に複合施設を第三セクターで運営するとした場合、排熱利用事業を他の事業スキームにすると、地域で２つの会社を作ることになる。第三セクターの経営の安定性等からすれば、排熱利用事業も第三セクターで運営するという判断もあり得ると思う。後々発想の幅を制限しないほうが良いと思う。

●フィールドミュージアムも第三セクターで運営することが考えられる。

●事業スキームを色々な角度から評価しているが、やはり複合施設がどのような性格の施設なのかという点と、マッチングも相当関係すると思う。非営利的な要素の強い公共的な取り組みと、将来的な増築や建て替えが必要となる営利的な取り組みがお互いにどのような関係性を持つのか、この事業スキームを見ても分からない。できれば、それぞれのパターンに合った成功事例を加えると具体的なイメージを持ちやすいと思う。

●成功事例を挙げることが困難であれば、事例を挙げることでも良い。

●失敗事例や苦労している事例も知りたい。

●複合施設のリスクは、一般論としては資料のとおりだと思うが、川場村の道の駅などの成功事例や、地域活性化の専門家の見解からすると、身銭を切りリスクを負うことによって成功するということである。そうやって必死になって成功していることを頭の片隅に置いてほしいと思う。

●実際のところ第三セクターは、公共の関わり方が非常に小さいものから非常に大きいものまで様々な形態がある。

●フィールドミュージアムに参画するNPOは、印西地区の活発な状況からすると、声を掛ければ芽はあると思う。

●フィールドミュージアムについては、田園の散策や自然学習における体験の場など、色々な取り組みがあるので、総合的な運営が求められる。よって、単にNPOだけではなく、例えば一般財団法人など、事業の目的に沿って永続的に活動できる組織のほうが、より安定的に運営できると思うので、NPOに限らず他の運営団体も想定して良いと思う。

●事業スキームは悩むところである。若ければハイリスクハイリターンを選択するが、地域には幅広い年齢層の方がいるので、じっくり相談しないとなかなか結論は出ない。

●地域の未来の話をしているので、将来的に地域にとって何が一番良いのかとなると、やはりハイリスクハイリターンが良いと思うが、実際問題、住民間で理解や意識に大きな乖離がある。

●フィールドミュージアムの取り組みは、２市１町の全域的な田園の保全活動に繋がる話である。よって、吉田区だけのためということではなく、２市１町の全域的な環境事業として捉えるという視点が問題提起されていると思うので、少し広がりをもって考えたほうが地域のためになると思う。

●フィールドミュージアムは、２市１町の財産を保全活用するという観点で、誰が取り組んでも良いと思う。結果として吉田区が栄えて人口維持に繋がれば良いと思う。

●里山トイレの整備は、吉田区内に限る必要はなく、広がりがあって良い。

●フィールドミュージアムの取り組みを広げる先には松崎区がある。

●フィールドミュージアムの取り組みに広がりを持つことに賛成するが、環境 NPO と法人化されていない環境団体は、自然環境に特化した一国一城の主が多過ぎるので、そこから一歩踏み出すために、廃棄物問題や気候変動問題まで含めた広い範囲で組織を束ねると多様な人材が集まるのではないかと推測する。

●複合施設の事業スキームだが、「地域等と公共の第三セクター」総評の欄が△又は〇というのは分かるが、「民間企業・NPO」の×又は〇は、その後に続く記述を読んでも意味が良く分からない。誤解を招くような気がする。

●複合施設と排熱利用事業は、ある意味では密接に関係してくるが、フィールドミュージアムと、その間を繋ぐインフラは、少し次元が違うと思う。プロレスの土俵と相撲の土俵が一緒になってしまい、この４つの仕分けは無理があるような気がする。

●地域振興策の各案を満遍なく誰が管理・運営するかという検討は、このような４つの仕分け以外にはできないという気がする。

●フィールドミュージアムという大きな考え方があって、その中に４つの仕分けがあるものと理解していた。

地域振興策総合パッケージの展開種別毎の評価（様式）について

●展開種別の欄だが、今後、ＡかＢかＣを選ぶのではなく、ＡとＢとＣの全部を選ぶ可能性があるので、各欄の「中心に展開」は除いたほうが誤解を招かないと思う。

●評価項目だが、地域振興策は吉田区の皆さんが主体的に取り組むこともコンセプトの一つにあったと思う。行政におんぶにだっこではなく、地域が主体性を持ち、また、身銭を切って進めるのだという部分は大事になると思うので、そうした点の評価項目が必要だと思う。また、展開種別の「排熱等の周辺利用及び外部供給」だが、収益を前提とした取り組みと、防災拠点など公共性の高い取り組みは、評価が異なってしまう。また、展開種別の「集客等を目的とした複合施設」だが、集客等の「等」について、きちんと表現したほうが、評価作業がしやすいと思う。

●展開種別の「集客等を目的とした複合施設」における集客等の「等」は、地元の産物を売る場でもあるので、収益が該当すると思う。

●主体性について、評価項目の「⑧中長期的な発展性」で網羅できるとの説明があったが、現状の意識も関係するので難しいと思う。いずれにしても主体性を評価してほしいと思う。

●吉田区が、どういったレベルで地域振興策と関わるのかが決まっていないので、直接的に主体性を評価するのは難しいと思う。評価項目における「⑦経済性」、「⑧中長期的な発展性」、「⑨課題」などにおいて、吉田区を励ますような文言をちりばめることで良いという気がする。

●主体性について、吉田区を励ますような文言をちりばめることで結構だが、主体性の評価は重要である。過大な負担を地域の人達に与えてしまってもいけないし、行政任せになってしまっても事業の継続難しい。バランスが求められる。

●主体性を持って取り組むことに対するリスクは、人それぞれ捉え方が異なる。例えば１億円の投資をリスクと捉える方と、１万円の投資をリスクと捉える方がいる。今後、事業内容や事業規模が固まっていった段階で、全体のリスクを定数化することとなる。現段階でリスクを定数化することは難しいような気がする。

●評価項目だが、「②地域に求められる将来像との合致」と「④地域の課題への波及効果」の内訳は、重要度の高い順に並べるべきだと思う。

●評価項目だが、②（アの「対外的及び次世代に対し誇りを持てること」について、評価の仕方が難しい。例えば、誇りを持てないインフラ整備、誇りを持てない複合施設、誇りを持てない排熱利用などは、書きようがない。

●吉田区のブレーンストーミングの結果を基礎として、委員会で抽出したたくさんの地域振興策を整理しようとしているので、このような整理になるのは仕方ないと思う。

●評価項目だが、吉田区の人口減少や高齢化に対する懸念を勘案すると、「人口の維持増進に貢献」や「居住の場の確保」などの要素を評価項目として加えるべきだと感じる。市街化調整地における現状の法規制では基本的に新たな住宅地は増やせない。

●人口の維持関係は、④ア）の「少子高齢化（地域社会の永続）」で触れることで結構だが、総合パッケージの各策の中で人口の維持関係に対応できている策はないと思うので、都市計画法における地区計画の手法を用いることを新たな地域振興策の一つとして追加したほうが良いと思う。地区計画を定めることで、宅地としての新たな土地利用の可能性が相当生まれてくると思う。

●都市計画法の地区計画に触れるのであれば、評価項目の④カ）の「土地利用のコントロール」は、「土地利用の適正化」とし、活用を含めた表現が相応しいかもしれない。

●地域振興策の検討は時間軸が凄く大事だと思う。直ぐにできるもの、法的な手続きが必要なもの、排熱供給が必要なものなど、漠然とした期間になるかもしれないが、短期・中期・長期的な策がある。そうした時間軸を評価したほうが良いと思う。

以上

委員意見の概要（第８回会議）

施設整備基本計画検討委員会第８回会議の報告について

●次期中間処理施設はごみ処理のほか、非常時の防災センターやエネルギー供給センターとしても位置付けられる重要な施設なので、アクセス道路を一本とする前提であることに疑問を持つ。２方向からのアクセス道路を整備しなければ、いざというときに機能しなくなる。また、アクセス道路の評価に関し、土砂災害危険区域の捉え方を整理したほうが良いと思う。

●地域振興策の内容によっては、一般車両と収集車の分離を考えなければならないし、計画市道松崎吉田線は相当交通量が多いことが想定されるので、地域振興のためのアクセスルートを検討する余地があるのかどうか確認しておきたい。経済的な観点からすると、新設するよりも泉カントリー倶楽部の進入道路の整備のほうが良いと思う。

地域振興策総合パッケージの展開種別毎の評価について

●Ａのインフラ整備における３（１）及び９などの評価だが、特段の貢献要素はないとは思うが、快適な日常生活の基盤となる部分なので、もう少しプラス評価しても良いと思う。

●Ａのインフラ整備における１１の評価は、快適な日常生活の基盤となる部分なので、もう少しプラス面の記述を加えたほうが良いと思う。

●この資料における評価は、個別に無理やり整理しようとする際に常につきまとう問題が生じている。シビルミニマムや、ナショナルミニマムという言い方があるが、そういう意味ではインフラ整備はそれ自体が直接的に収益に寄与しないが、間接的には寄与する。こうした整理の仕方そのものが問題なのかもしれない。インフラ整備はやらないという感じがしないでもない。

●Ｂの多機能な複合施設の評価だが、道の駅に農産品を出荷する際に、お年寄り同士のおしゃべりもあるし、お年寄りと若いお母さんの集いの場としてコミュニケーションを交わす場としての割と高い役割があるので、そうした集いの場としての効果を高く評価すべきだと思う。

●昔は、集落の寄り合いなどで綿密なコミュニティの人間社会があったが、近年はそうした基盤がだんだん小さくなった。多機能な複合施設を展開する中で新しい現代的なコモンズが生まれるメリットがある。

●参考資料-2の「焼却施設からのエネルギーの権益の譲渡」の前提が公設民営になっている理由を括弧書きで追記してほしい。

●ＳＰＣという用語は、証券化の仕組みの中ではスペシフィック・パーパス・カンパニーとして用いるので、混乱する。

●地域振興策総合パッケージの展開メニュー的な具体的な考え方は示されていると思うが、場所的な範囲もある程度示す必要があると思う。建設候補地周辺の台地の上だけでも20～30ヘクタールある。台地の下のほうにも市道沿いにかなりのスペースがあり、道の駅の一つの候補地ではないかと思う。そこは計画市道松崎吉田線と県道八千代宗像線との交差点付近なので、交通の集まる場所として非常に重要であり、道の駅などが成功するか否かの生命線の一つだと思う。また、この周辺の環境及び景観の印象により地区のイメージが大体決まってしまうと思う。また、もう一つ大切だと思うのは、できれば道の駅とリンクさせたい吉田マリーナの展開にも関係するが、新道を含めた県道八千代宗像線が吉田干拓の水田を分断するので、水田の利用価値が低くなる。将来的にこのままで良いのかどうかという土地利用の将来像を考えなければいけないと思う。よって、阿宗橋から東側に大体延長1.5～２㎞位の一帯と、計画市道松崎吉田線と県道八千代宗像線との交差点付近、また、そこから台地まで延長した一帯を舞台として考えないと良いプランにならないのではないかと感じる。

●新川と平行する農業用水路の真横に新道ができるので、将来、その周辺が本当に荒れてしまうのではないかという気がしてならない。新川の水辺を活かすということであれば、事業展開するエリアを慎重に考えたほうが良いと思う。新川周辺の魅力がなくなると、地域として多分相当のダメージを受けると思う。

●新川周辺に新道ができることは、相当大きなインパクトなので、中間処理施設と道の駅などを複合的に考えていく場合、ある程度広がりを持った土地利用構想みたいなものを持った上での地区計画が必要だと思う。周辺の道路計画と来訪者の目線を念頭に置いて検討を進めないと、禍根を残すような事態もあるのではないかなと感じる。

●Ｂの多機能な複合施設は、もしかすると景観に適した形で積極的に開発すれば、地域の景観保全に資するということに繋がるかもしれない。

●Ｄ３（２）①で記述している「里地里山は極めて貴重な学習、発見及び余暇などの場」の「余暇」は、「ボランティア（間伐・下刈り）」という言葉に置きかえると、里地里山を保全する意味が出てきて、汗を流して風呂入るというところに繋がっていく。現状の余暇では漠然としてしまう。

●里地里山における活動は、住民の健康増進と健康寿命の延長、ひいては医療費軽減に役立つという意見もあった。これまで語ってきた夢をもう少し表現したほうが良い。

●３（５）、Ｂ３（５）①、Ｄ３（５）①などで記述している「里山」は、表現を統一する観点から「里地里山」に合わせてほしい。

●地域振興策を展開するにあたり、印西市や千葉県に協力してほしい部分があると思う。構想の段階で組合が全部担任するということを余り意識し過ぎてしまうと、中途半端な感じがする。当然、全部組合で進めるのではなく、関係団体との連携の中で進めることが基本になると思うので、その点をある程度明確化しておいたほうが良いと思う。そうしないと、議論がどんどん小さくなってしまう。組合でやれることだけしか答申しないのはおかしいと思う。

●Ａのインフラ整備を吉田地区フィールドミュージュアムの中に入れるのは無理があるような気がする。Ｂ、Ｃ、Ｄを展開するためにはベーシックな部分としてＡが必要なので、地域振興策は大きく分けるとＡのインフラ整備と、吉田地区フィールドミュージュアムを構成するＢ、Ｃ、Ｄという二つになると思う。そうした説明のほうが地域の方々は理解しやすいと思う。

●給水が井戸水では、多機能な複合施設の運営は無理だと思う。やはり基本的なインフラ整備があって初めて多機能な複合施設や自然公園的整備が展開できるのだと思う。インフラ整備とその他の地域振興策が横並びで良いのかどうか疑問である。

●現状の４つの展開種別は、Ａのインフラだけを求める意見に対して、実はＢ、Ｃ、Ｄが地域の活性化には重要であるということ及び各展開種別の関係性を説明したい背景があると思う。

●これまでの議論の経過を知っていれば全然問題ないが、この資料を見た人はＡのインフラ整備は、きつい評価に感じると思う。

●Ａのンフラ整備に対する「×」と「特段の貢献要素はない」という評価は、再考したほうが良い。

●「×」は「―」に置き換えることも考えられる。

●Ａ５（４）だが、防災については、インフラがベーシックな部分で重要だと思う。

●この資料は前提条件があって作成しているが、前提条件をイメージしながら見ないと理解することが難しい。

●各ページの最上部に記述している内容を踏まえて評価欄を見れば、多分余り問題はない。

●各ページの最上部に記述している内容を踏まえても、Ａのインフラ整備に対する評価の表現はきついと感じる。

●貢献要素が少ない位の表現にしておけば良いかもしれない。

●基本的なレベルで貢献するという表現も考えられる。

●一般論だが、地元対策で最も目ついて分かりやすいのは、やはりＡのインフラである。特にお年寄りの方が色々苦労しているところ、不便に感じているところが改善されるので良いと思う。Ｂ、Ｃ、Ｄは、全て時間を要する。資料では横一列に並べてインフラ整備を特段の貢献要素はないとしているが、やはり、目に見える形で短期的に取り組むインフラ整備は非常に分かりやすい。松崎区にもメリットが生まれる。

●多分、事務局は、Ｂ、Ｃ、Ｄがフェーズアウトし、皆がＡに集中するのをなるべく避けたいと考え工夫したのだと思う。

●Ｄ３（７）①だが、「持続可能性に貢献」と記述しているが、里地里山の保全活用はサスティナビリティの象徴なので「持続可能性の象徴」である旨を記述してほしい。

●吉田区から提案のあった吉田マリーナは、言葉の響きからすると大それた感じがする。吉田区がイメージしている内容がどういったものなのかを踏まえ、場合によってはマリーナではなく埠頭、船着き場、ボート管理場などと表現することも考えられる。なお、印旛沼の水深はとても浅く、大きな船を運航することは難しい。

●吉田マリーナを改め、吉田船着き場も考えられる。

●吉田船着き場は、イメージが分かりやすい

●吉田マリーナはとする表現は、葉山のマリーナなどをイメージする方もいるかもしれないが、将来的にオリンピック競技の練習場など、様々な可能性もあるので、表現としては吉田マリーナで良いと思う。

●Ｄ５（４）だが、里地里山は緩衝機能を持つので、評価は「×」ではなく「△」程度にしてほしい。

●地域振興策とは、最終的に各展開種別のベストミックスを作るという話である。

以上

委員意見の概要（第９回会議）

施設整備基本計画検討委員会第９回会議の報告について

●造成計画は基盤の切り下げを想定しているようだが、相当量の残土が発生すると思う。残土処理は地域内処理を原則とし、地域振興策やアクセス道路整備で有効利用できると思うが、どのように考えているのか確認したい。

●建設候補地西側の斜面林を大幅に伐採するようなプランとなっているが、環境保全的な配慮や防災的な配慮をした上での施設配置という基本的な考え方が見えてこない。里地里山や建設候補地内の豊かな自然環境を保全するという前提で、施設配置は当然計画すべきだと思う。資料のプランでは環境に対し非常に影響があると思うし、煙突だけではなく建屋そのものが外から丸見えになってしまうので、非常に大きな問題があると思う。第三者的な目線から見て、基本が外れているような危惧を抱いた。

地域振興策（案）について

●基本的には、道路や水道などの生活インフラに着手する場合、計画的に面的な土地利用と一体に、集落を今後どうするのかという地区計画的な目線で検討を進めるべきだと思う。

●インフラ整備のマスタープランを策定することは大げさだが、プログラムみたいなものを一旦挟んだほうが良いと思う。

●プランナー側の委員は物足りないかもしれないが、現状は地域振興策のアイデアリストなので、実施の段階では何らかの計画は策定すると思う。

●全体計画をしっかり協議した上で整備に着手することが求められる。

●資料の記述に英語を用いるのは避け、分かりやすい日本語にしたほうが良いと思う。例えば、１３ページの「レジリエンス」は、「柔軟性」、「即応性」、「しなやかさ」などに変更することが考えられる。なお、「レジリエンス」という言葉は、一部の議員と大学教授が、東日本大震災の関係で災害に強い国土を創りたいという気持ちで用い始めたにも関わらず、新しい公共事業の予算を確保するための言葉ではないかという誤解を招いたいわくつきの言葉でもある。また、「地域コミュニティ」も「地域共同体」とすれば分かりやすい。資料は、適切な日本語を用いたほうが良いと思う。

●「コミュニティ」は、一般に定着している。

●非常に新しい概念だが、「ミュージアム」や「フィールド」も一般に定着している。

●一般に用いられている場合や、英語でないとニュアンスが伝わらない場合は問題ない。また、委員長が新しい概念として打ち出した「ミュージアム」などの言葉は大切にしたいと思う。

●１３ページは最も注目されるところだと思うが、これまでの調査審議を踏まえ、理念・目的の説明に「持続可能な」又は「持続できる」という言葉を加えることで、オペレーションシステムやスキームなどを理解していただけると思う。なお、「持続できる」だと強すぎるかもしれないので、「持続可能な」を追加したらどうかと思う。

●「持続可能な」は、使い古されてしまっている中、「持続できる」は、とても新鮮に聞こえた。

●「持続できる」だと、少し責任が生じるかもしれない。

●地域振興策の展開は、基本的には吉田区のためだけということではなく、吉田区を地域の活性化や持続可能な地域づくりの拠点ないしはポイントとなる重要な地区としながら、２市１町全体の活性化に資するという考え方があったと思う。本事業は広域行政組合の仕事なので、２市１町の活性化に寄与することが求められると思う。その点は９ページの「その他地域振興策において必要と認められる事項に関すること」で触れるべきだと思う。

●地域振興策なので、清掃工場周辺の振興を図ることが中心になると思う。

●組合の事業として展開するからには、局地的な事業として止めるのではなく、２市１町の地域活性化にも資すること及び２市１町との連携を図ることを絶えず考える必要があると思う。そうした広い考え方で検討を進めることを答申書のどこかに明示したほうが良いと思う。

●地域振興策は、単に迷惑施設の地元対策ということではなく、印西地区全体の魅力向上に繋がるという視点があることをもう少し打ち出すと良いと思う。

●地域振興策は、広域行政組合の事業として進めるので、印西市、白井市、栄町も受益者である。当然、地元のためということではあると思うが、バランスをとりながら考えていくことが、前提だと思う。

●３ページに、記述している「本案は当該協議を適切かつ円滑に進めるための基礎資料として作成した」では、単なる羅列した基礎資料という位置付けになってしまうので、全体のビジョンとして、例えば、「本案は当該協議を適切かつ円滑に進めるための第三者委員会による基本的な考え方と、それに基づく提案書として作成した」ものだという形で、単なる当事者同士の協議の基礎資料ではないのだということを作成目的の中で大きく明確にする必要があると思う。また、地域振興策は、単に吉田区と松崎区の話ではなく、更に広い意味での提案となっていることと合わせ、２市１町の税金を使うことから、やはり波及の幅を広めにしておく必要があると思います。地域振興策が吉田区対策だけのものであると捉えられてしまうと、反対の意見が出され、事業の現実性が乏しくなると思う。

●９ページの③を①に格上げして、タイトルを「地域振興策の目的と展開する場所」とし、「地域振興策は２市１町全体の活性化に資する旨」を追記することが考えられる。また、１３ページの全体構想で記述している「地域」を「地域内外」に変更すると、受け取る印象が変わるかもしれない。

●温浴施設や宿泊施設などは、白井市・栄町の住民も利用することになると思うので、「地域振興策は２市１町全体の活性化に資する旨」を追記してほしい。

●１３ページの全体構想で記述している「地域」は、吉田区とその周辺なのか、２市１町全体なのか、捉え方としては色々ある。

●議論の出発点は、吉田区とその周辺の地域振興策であり、当然その点が基本となるが、議論を進めた結果、より広域的な波及効果に関する可能性が見えてきた。よって、単なる地域対策としないほうが、今後の議論の広がりを見ることができると思う。

●基本的に本検討委員会で調査審議している地域振興策は、吉田区に関わるものだと思うので、吉田区における地域振興策を展開した結果、広く印西地区の方々も利用できるという論法で進めないと、本検討委員会のミッションから少し外れていくような気がする。

●私は清掃工場を迷惑施設だとは思っていないが、迷惑施設と考えられがちな清掃工場の受け入れを同意してくれた吉田区に対する地域振興策の展開は必要だと思う。基本協定は締結したが、地元にメリットがなければ事業に反対し、整備協定を締結しないという判断もあり得る旨の説明を以前受けた。しかし、そうした点だけではなく、地域振興策を広域的な２市１町、特に印西市のまちづくりの中にきちんと位置付けて展開しないと、一部の住民感情や政治的な意味も含めて反対され、事業が実現できなくなるかもしれない。松崎区から見たときに、吉田区ばかりが良くなっていると捉えられてはいけない。

●吉田区が引き受けてくれなければ本当に困る事態となるので、皆さんの発言の趣旨は多分同じだと思う。

●吉田区にメリットが感じられないといけない。

●清掃工場を受け入れていただく吉田区の夢を崩すようなことはまずいが、地域振興策の展開は、吉田区のためだけではなく、印西地区全体の新しいまちづくりの展開に繋がるということである。

●現状の資料の纏め方は、印西地区全体に対する配慮が多少欠けているように思うので、８ページの評価に関することにおいて、より広い公共性のようなニュアンスを加えることも考えられる。

●印西地区全体に対することは、本検討委員会の基本的な考え方として、新たにＡ４サイズ１枚程度で纏めると分かりやすいと思う。

●印西地区全体に対することや、本検討委員会がどのような立場で議論を進めてきたかは、委員長挨拶の「はじめに」に記述することも考えられる。

●吉田区とその周辺に対する振興、これが第一だと思う。ただし、世の中には色々な人達がいるので、それだけではないという含みを持たせないと、吉田区だけのために税金使うのかというような議論が始まってしまうかもしれない。地域振興策のアイデアは、吉田区をきっかけとして印西地区全体を考えて提案していることを明確にしておいたほうが良い。

●地域振興策は、印西地区全体に対する波及効果があるという表現だけではなく、基本的には広域組合の仕事として、広域住民の福利や、広域的な地域の活性化にも資するように配慮して検討する姿勢を明確に表現したほうが良いと思う。

●私は様々な地域へ仕事で赴くが、清掃工場の用地を公募で選定して、今、地域振興策検討の委員をしていると話すと、皆が奇跡だという反応を示す。吉田区と本事業の接点の数が少ないような気がするが、奇跡的な事業を何とか実現させるという方向で、答申書を纏めると良いと思う。

●印西地区全体に対することは、委員長挨拶の「はじめに」に盛り込むことで良いと思う。

●通常、「はじめに」などの挨拶文は読み飛ばしてしまうものだが、そうならないように、どのような視点に立ったのか、また、皆で真剣に議論したことをきちんと書いてほしい。

●確かに委員長挨拶の「はじめに」に基本的な考え方を足すことはよくある。最初に基本的なスタンスを理解してもらわないと意味ない。

●松崎区も視野に入れ、また、白井市と栄町に対しても応援し、福利という形で印西地区全体が利益を受けるということになる。

●２８ページの№３６だが、「動植物生態系」、「生物多様性」という同じような概念の言葉が並んでいるので、ここは「生物多様性・生態系」という整理で良いと思う。また、「地球温暖化」は、国際的には気候変動という言葉で議論していることから、「地球温暖化（気候変動）」としたほうが無難だと思う。また、廃棄物と３Ｒを別々に記述しているが、３Ｒは廃棄物問題を解決する手段なので、廃棄物（特に３Ｒ）と整理したほうがスマートだと思う。なお、３Ｒは用語説明が必要だと思う。

●１５ページの№３の市道は、地元の吉田区の方々が毎年のように道路に積もった落葉、落枝、土砂を地域総出で大変な労力により管理していることから、廃道の上、新道を整備するというアイデアだったと思うが、当該市道は非常になだらかでレクリエーション的にも使えることから、廃道ではなく、地域振興策の一環として適切に隣接林等を管理しながら、逆に積極的に有効利用する考え方もあると思う。

●１５ページの№３の市道は、通行がほとんどないこともあり、ひどい状況である。

●１５ページの№.３の市道は、ハイキングには素晴らしいルートである。

●１５ページの№.３の市道は、勾配やルートなど地域散策に理想的な道なので、積極的に活用したほうが良いと思う。

●１５ページの№.３の市道は、フィールドミュージアムとする取り組みの中でマネジメントできれば一番良い。

●２９ページの№.３８のサイクル駐輪場などは、サイクリングにおける一つの拠点となることが当初からの大きな柱であったと思うが、説明欄の記述が寂しい。サイクルカフェなども整備し自転車の愛好家が集まることで、休憩場所のほか様々な部品やシューズなどを販売する取り組みも考えられるので、少し表現を膨らませてほしい。

●１８ページの№.１３のマリーナ構想だが、現在、新川に沿って県道 263 号バイパスが建設中である。新川の堤防から 40 メートル位の幅で、並行して造成工事が行われている。新川の印西側堤防はサイクリングロードが未整備だが、当該県道には歩道が整備される。新川と当該県道の間には水路と二、三十メートル幅の平地があるが、県が河川公園などとして堤防と一体的に整備する考えがあるかもしれない。地域振興策は公共事業なので、そうした点を確認及び踏まえた上で説明欄を記述したほうが良いと感じた。

●今後の検討体制だが、地域振興策の具体化に向け専門家を加えて持続的に検討する協議会を設置するのかどうか、また、当該協議会のあり方について触れておいたほうが良いと思う。

●８０ページの展開種別毎の評価における多機能な複合施設だが、③の表題を「高齢者の」と限定しているが、幅広い年齢層を対象としたほうが良い。要するに、道の駅的な施設は、子育て中のお母さんも出荷に来て、農業技術のほか、お年寄りから育児の知恵を授かったり、あるいは介護のアドバイスを受けたり、そうした色々な交流の場としての機能が期待できる。

●コミュニティの活性化は、地域振興策の基本である。

●展開種別毎の評価について、資料の説得性と見やすさの関係から、８１ページの総括は最初のページに記載し、７９ページの課題を最後のページに記載したほうが良いと思う。

●一般の方は細かく見ないので、結論は先に出したほうが良い。

●８０ページの展開種別毎の評価における里地里山の保全と活用だが、①の説明文について、「医療費の軽減」は「医療・医療費の軽減」とすべき。

●７３ページの展開種別毎の評価における里地里山の保全と活用だが、①の説明文について、「都市化が進む」は「都心に近く、都市化が進む」としたほうが説得力を持つ。

●吉田区は田園自然が守られ、今日まで良く残されていると思うが、近い将来、県道バイパスと市道の完成により交通の便が大幅に改善される。よって今後は道路の完成を見込み沿道の谷戸や田畑などの土地が物色され、残土捨て場や廃資材置場などに転用され、環境や景観が急激に荒れ果てる危険性があるのではないかと心配している。建設候補地とその周囲についても同様な危険があり、油断せず慎重に対処する必要があると思う。こうした危険の防止には、吉田区の方々と行政が連携し、土地や景観の保全策を講じる必要があると考えている。その対策については別途意見書などで提案したいと思う。

●７７ページの展開種別毎の評価におけるインフラ整備等だが、下水道整備について、下水道と同じ水質まで浄化できる合併処理浄化槽の活用も視野に入れるべき。

以上

委員意見の概要（第１０回会議）

答申書（案）について

●委員長挨拶文の「はじめに」の記述について、これまでの検討経緯からすると、「暮らしやすく快適なまち」は「暮らしやすく持続できる快適なまち」としたほうが良いと思う。

●1-(3)-16ページの環境図書室の概要欄について、「廃棄物（特に３Ｒ）」は「循環型社会・廃棄物（特に３Ｒ）」としたほうが、当検討委員会として相応しい表現になると思う。

その他

●現状の相続制度や農業経営の実態からすると、今後、里地里山の地権者が拡散し、資材置き場等のバックヤード的な土地利用に移行するのが目に見えていることから、里地里山の良好な景観と機能を維持すべく、地権者組合などを設立し、権利を集約した上で里地里山を維持・管理・活用する仕組み作りが求められる。この点は、建設候補地の用地にも当てはまることなので、専門家のアイデアを活用するなどし、地権者をサポートしてあげることが必要だと思う。

●思いもよらぬ所有権の移転や、相続による権利者の拡散は、他の公共事業でも問題となったケースがあることから、意見のあった地権者組合などの設立も含め、適切な対策をお願いしたい。

●吉田の里地里山の自然学習のお手伝いをボランティアでできればという夢を抱いているので、何かお役に立てるようなことあれば、声を掛けていただけるとありがたい。

●印西地区の全住民に、地域振興策の展開を含む次期中間処理施設整備事業は地域活性化の起爆剤であり波及効果が印西地区全域に広がることを理解していただく必要がある。せっかく素晴らしい答申書がまとまったのに、絵に描いた餅で終わってはいけない。印西市の市長、関係部署及び市議会の理解と手腕に期待している。また、できるだけ国県の財政的支援を受けられるような知恵出しも期待している。

●吉田区は過疎化が進み若い人がどんどん外に出ていることから、地元の住民達はいかにこの吉田区を維持していくかについて、日頃から本当に危惧している。吉田区は旧印旛村時代から行政区域の端に位置していることから、「自分のことは自分でしないと何ともならない」という気持ちが歴史的に脈々と受け継がれている。よって、今回、地域として次期中間処理施設整備事業を逆にチャンスと捉えたのだと思う。委員の皆様が「検討委員会に参加して本当に良かった」と思っていただけるような素晴らしい地域振興策を展開したいと心より考えている。

●答申書にまとめた地域振興策のアイデアは断片的なものだが、うまく有機的な結合ができれば、事業そのものが意思決定力を持つものに育つのではないかという期待をしている。

●意見があったように、地域振興策のアイデアはエレメントとして多く抽出されたが、今後、一つの有機体にきちんとつくり上げていく必要がある。また、土地の所有は大別すると個別所有と共有の２つだが、実はその中間が色々ある。代表的なものとして総有（コモン）が挙げられる。この考え方は人口が減る社会の中、都市も農村も関係なく必要になると思う。総有はコミュニティーによる地域の土地のマネジメントをいかに上手に進めるかが問われるが、昔の入会地のような総有は現代ではうまくいかないので、いかに上手に近代化するかが実は大きな課題となる。今後は、何をするのか検討することも重要だが、以前説明した３ポイントアプローチ（デザイン・スキーム・ビジネス）の内、スキームの部分も重要となる。つまり、どういう所有関係、どういう資金状態、どういうやり方で事業を進めるかという点である。吉田区では上手に事業を進めていただけると思うので、今、我が国が地方創生など色々な形で直面している問題のパイオニアになるのではないかと期待している。

以上